

別紙2

<最優秀賞>

愛知県経済農業協同組合連合会（ユニー株式会社、ヒラテ産業有限会社と連名）

『食品資源を活用した地域循環型農業の構築』

食品小売業者であるユニー（株）は、食品残さの分別の徹底と計量、品質保持のために冷蔵保管したものを再生利用事業者であるヒラテ産業（有）に渡す。ヒラテ産業（有）は、農業者が必要とする良質な完熟堆肥を製造。JA あいち経済連は農家の窓口となり、リサイクル堆肥の品質管理から農産物の生産・販売までを指導し、このリサイクル堆肥で生産された野菜をユニー（株）が全量購入し、販売する食品リサイクルループを構築。

食品リサイクルループの模範事例であり、信頼性が高く、安定・継続的な取組。

<優秀賞>

①

株式会社アグリガイアシステム

『完全循環型食品リサイクル「エコラ エフ」』

再生利用事業者である（株）アグリガイアシステムは、食品廃棄物を冷蔵車によって回収し、まず飼料化、飼料化に向かないものは堆肥化、どちらにも向かないものはメタン化しエネルギーを利用するというリサイクル手法を組み合わせてリサイクルするトータルシステムを構築。

京王グループ、セブンイレブンともタイアップ。

②

株式会社サンデリカ

『弁当・調理パン業界における食品廃棄物の発生抑制の推進と食品リサイクルへの先行取組』

生産ラインで発生する食品廃棄物を毎日計量し、記録できる「ロス計量システム」を導入。これにより 13 % の発生抑制を実現した、食品製造業における効果的な取組。また、排出される食品廃棄物は飼料化を優先しており、リサイクル率は 98 % を達成。

<奨励賞>

①

國分農場有限会社（あだたら環境農業研究会、岳温泉旅館協同組合、JA みちのく安達有機農業研究会、須賀川料飲リサイクル俱楽部、大玉村商工会と連名）

『食品廃棄物の堆肥化、飼料化（エコフィード）、および再生堆肥のバイオマス 燃料化への取組』

福島県安達太良山麓の岳温泉を中心とした地域で、地元の旅館・流通・農業の異業種の連携により堆肥化、飼料化、バイオマス燃料化のリサイクルを行い、農産物の地産地消による地域振興を達成した成功事例。

②

株式会社小田急ビルサービス

『小田急グループにおける食品ループリサイクルの取り組み』

小田急グループ内の食品関連事業者から発生する食品廃棄物を、グループ内で立ち上げた飼料化施設で液体状飼料にリサイクル。養豚農家と連携しブランド肉として再びグループ内の食品関連事業者が販売する食品リサイクルループを構築。

③

株式会社末広製菓

『副産物としての食パン耳を主原料とした新規スナック菓子の開発』

従来、飼料化していた食パン耳を食品原料としたスナック菓子を開発し、グループ内のコンビニエンスストアで販売するほか、無印良品に供給。

廃棄物とせず有効利用した商品開発・販売の先駆的取組。

④

生活協同組合コープこうべ ((有) みずほ協同農園と連名)

『食品廃棄物処理システム（メタン発酵施設及びおから乾燥施設）による食品廃棄物の再資源化』『環境共生型農園「エコファーム」による堆肥化と安全・安心な野菜づくり』

食品小売業者であるコープこうべが、自ら堆肥生産施設を作り地元農園と連携しリサイクル堆肥を利用して生産した農産物を再びコープこうべの店頭で供給。また、コ

一社六甲アイランド食品工場から排出されるおからを乾燥し、飼料原料にリサイクル。さらに生ごみのメタン発酵による発電施設を設置するなど複合的なリサイクルシステム及び食品リサイクルループを実現。

(5)

特定非営利活動法人伊万里はちがめプラン

『「生ごみを宝に！」持続可能な地域社会を目指して』

市民が自ら資金を出して堆肥化プラントを建設し運営を行っている。地域の飲食店、旅館・ホテル、小売業、市民の排出した生ごみを堆肥化し販売。事業者・住民と広範に連携したNPOによる食品リサイクルの模範的事例。

(問い合わせ先)

東北地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課

廃棄物対策等調査官 富田 和明

022-722-2871(直通) 022-724-4311 (FAX)

E-mail : KAZUAKI_TOMITA@env.go.jp